

<b>1 学校教育目標</b>
(1) 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む (2) 道徳性と豊かな情操を育む (3) 心身の健康を自己管理する態度を育む

<b>2 本年度の重点目標</b>
【確かな学力・自己実現を図る態度の育成】 (1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育む。 (2) 基礎・基本を定着させ、併せて個に応じた教科学習指導を行う。 (3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、併せて個に応じた進路指導を行う。
【道徳心と豊かな情操】 (1) 自分の大切さとともに他の人の大切を認める態度を育む。 (2) 規範意識を身に付け善悪を判断し自ら律する力を育む。 (3) 我が国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。
【心身の健康の自己管理】 (1) 正しい食習慣と生活習慣を身に付けさせる。 (2) 運動に親しむ態度を育み体力を向上させる。 (3) 危険を予測回避する力を向上させる。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	三課程 (全定通) 運営と学校経営の整合性を図る	本校のスクールアテンティイが三課程で共有化されているか。課程間の情報交換が、継続的に図られているか。より良く改善が進められているか。	教務・進路・生徒指導部の情報の共有化および連携の強化を図る。三課程での研修の充実。	三課程教頭会を、定期的実施する。3 課程年間研修計画を作成する。	B	ICT や人権教育研修など三課程合同の職員研修が実施され、事前の打ち合わせも十分に行われており、特に問題は生じなかった。もっと三課程でまとめてできる研修もあり、普段からの教頭同士の事前の連絡調整を行う必要がある。
	適応指導の充実	学年及び関係する分掌部が連携して具体的な取組が進められているか。	新入生への年間を通じた、適応指導の充実。1 年生の転学・転籍・退学者数割合 12% 以内。	適応指導委員会が作成するシラバスに従って学年や各分掌部がそれぞれの取組を実施する。	C	適応指導シラバスや1 年部で SST 等工夫して取り組んだが、1 月 7 日 (月) 現在で進路変更した生徒は 13.1% であり、目標を下回った。
学力向上	アクティブ・ラーニング推進のための指導方法の工夫と改善	アクティブ・ラーニング型の授業の展開が図られているか。	アクティブ・ラーニング型授業]の展開を意識しながら実践している職員の割合について、90% 以上を目指す。	各教師の AL 授業の実践について A4 報告書 1 枚を提出してもらい保管する。	C	日常的に、AL 授業が実践されており、生徒の学校評価アンケート結果では、わかりやすい授業が A+B=97% だったので目標 90% を達成した。ただし、職員からの報告書の提出がまだない。また各教師間の取

						組内容の共有にまで至っていない。実践事例の発表または報告書の配付の活用など取り入れる必要がある。
		思考力・判断力・表現力が育まれているか。	大学入学共通テスト対策も含めて、普段の授業から、生徒が自ら考えたり表現したりする活動を増やす。それにより、思考力・判断力・表現力を育成する。	公開授業・研究授業を実施する。近隣中学校にも案内を出しアドバイスをいただく。定期考査に思考力・判断力・表現力を試す問題を入れる。	B	公開授業、研究授業を行い、多様な生徒にどのように授業を構築すべきかスーパーティーチャーや県立教育センターの指導主事から助言をいただいた。以前の教師講義式の授業からAL授業に移行しつつある。
学びのUD化	特別支援教育の観点から、支援を必要とする生徒に配慮した授業ができているか。	多様な生徒が混在する集団の中でそれぞれが授業に集中できるように授業の展開を工夫する。	授業での支援を必要とする生徒への配慮について、授業担当者に実践事例を提出してもらおう。	A	職員の意識の高さもあり、多様な生徒への対応はできている。人権に配慮した授業づくりについて十分に研修を行った。	
		小中学校等からの学びの連続性の確保という観点から、多様な学びの場を整備する。	障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するため、「通級による指導」により、自立活動の学習を実施する。	A	「通級による指導」の授業が始まったが、他校での実践例や先行事例を参考にして、1年目は充実した「自立活動」の授業が展開された。授業についての生徒の満足度も高い。通級の授業を通じて、進路相談などの支援も行われている。	
単位制の特徴を生かした教育課程の検討	社会の変化、進路の多様化等に対応するカリキュラムを広く検討できたか。	大学入試共通テストへの対策や、新学習指導要領に則ったカリキュラムにどのように作り上げていくか、基本的な枠組みをシミュレート作成する。	授業を精選し、新旧のカリキュラムの授業をどのように開講するかを検討する。教科会で大学入試共通テストの分析を行い、どのような対策が必要か、話し合う。	C	各教科において、新大学入試に向けて、テスト分析をおこなった。しかし、大学入試共通テスト及び新学習指導要領に向けてのカリキュラムの検討や、入試対策についてはこれから進める段階である。	

		生徒目標達成のためのカリキュラム編成を十分に支援できているか。	生徒一人一人の特性や進路目標をふまえながら、前向きな進路実現へ向けたカリキュラム作成を促進する。	「具体的なカリキュラム編成例」をcompassに記載し、カリキュラムガイダンスや個人面談を充実させる。	B	5月のカリキュラムガイダンスに始まり、6月に科目ガイダンス、8～9月に個人面談を実施した結果、多くの生徒が自分の進路を考えてカリキュラムを組むことができた。カリキュラム作成は、学年部を中心に親身に対応してされている。ただ安きに流れないような指導に苦慮している。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の推進	多様化する社会構造を踏まえ、社会的・職業的自立に向けた能力・態度が育成されているか。	進路講話・職場見学・進学ガイダンス・ボランティア活動を通して、具体的イメージを持った職業観を形成する。	外部機関が主催する事業や地域および産官学との連携をはかり、校内の取組を連動させて実施する。	B	進路講話、職場見学に育友会キャリアサポート委員会と連携して取り組めた。今後生徒の職場見学と進路ガイダンスを通して外部機関と連携して取り組む予定である。
			インターンシップを通して、働くことの意味や意義を考え、望ましい勤労観を形成する。	職業講話等の事前指導の事業所との事前の打合せや、礼状の送付等を含め、活動の全体で大きな学びが得られるようにする。	B	事前指導から事後指導まで計画通りに進められた。事業所との連携や指導内容に課題があるものの、校内での指導では得られない学びが見られた。今後は指導体制のある事業所との、連携を図りたい。
			働くことの意味を理解するとともに自身の将来像を現実的にイメージし、行動に移す積極性を育む。	進路・就職ガイダンスへの積極的な参加を通して、望ましい職業観を形成し、進路実現につながる積極的な学習に取り組ませる。	C	進路ガイダンスを通して今後の進路実現につながる示唆を頂く予定である。今後は、日頃の学習の場面においても働く意義を理解させたり、ボランティア活動等他者への貢献活動にも取り組ませ、自己有用感を高めたい。
	進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標の早期設定を促す。	二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種	C	各学年で二者面談・三者面談を通して進路希望を把握して、その後の進路指導に役立てている。

				調査結果などを活用して生徒の自己理解に生かす。		生徒自身にも自己理解や、職業理解など進路研究に関わる情報提供を適宜行うことができた。 取組が不十分な生徒に対しては、早期から、個に応じた指導の工夫が必要である。
			基礎的な学力の向上を図るとともに、進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、進路選択の幅を広げる。	学びなおし教材を1年生の授業で活用する。模試・進路のしおり・進路情報誌・進路ガイドダンスなどの活用を進める。キャリア別終礼・進路検討会等を定着させる。	B	国数英で学びなおし教材に取り組みその基礎力診断テストを通じて学力の定着度として活用し各教科での学習指導に役立てることができた。 進路のしおりや進路情報誌を活用しながら、進路研究を深めることができた。 今後はLHRなどでの進路学習での資料活用や情報収集などの学習技能を高めて、生徒が自ら進路研究を進められるよう育成したい。 模擬試験の受験案内を早めに行い、担任から粘り強く指導し、大学等進学者はほぼ受験した。 模試の受験後のやり直しが不十分で生徒の学習状況を把握していく必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立（特に時間を守る取組）	生徒が健全に社会に適応できる生活をしているか。	自主的に健全な整容を心掛けられるような指導	学年間の指導内容に差が生まれないように、整容検査内容のマニユアルの活用を行う。検査結果を共有化するために文書セキュアを活用してデータ管理を行う。	B	不合格者は若干いるが、生徒が改善に取り組む姿勢に変化が見られるようになった。整容指導カードによる指導も含め、効果が上がっている。検査結果をデータ管理・共有し次回の整容検査に活かすことができた。検査項目によっては検査後の継続指導が必要である。

		生徒が社会に通用する能力を備えつつあるか。	チャイムと同時に授業を開始し、チャイムと同時に授業を終える指導。授業は正しい姿勢で集中して取り組む指導	正しい授業への取組指導を行うことで正しい言葉遣い、期限を守る態度、自己表現の向上等の社会人に必要とされる人間性を育成する。	B	学校全体で取り組んだ結果、「時間を守る」という意識が生徒に根付いてきた。校内で自発的に挨拶をする生徒が多くなり学校の良い雰囲気が醸成されつつある。 チャイムを短くし適切な長さに変更した。授業が、整然と開始できる雰囲気づくりが整った。遅刻指導も軌道に乗ってきた。授業では課題提出が期限を守られていない。
理性的態度と道徳的実践力の育成	規範意識の高揚、友愛・連帯の精神を養おうとしているか。	生徒総会、学級や委員会活動・部活動など集団生活の中での責任と人間形成の指導。	生徒総会を実施し、生徒の自主性を伸ばす。委員会活動を3回以上実施することで委員会活動の活発化を図る。	B	生徒総会を今年度初めて9月に実施し、生徒からの意見も活発に出された。委員会活動の時間を計画することはできなかったが、各委員会の日頃の活動は充実が見られた。生徒も与えられた役割を果たすことができた。 年間活動計画を見直し計画的に委員会を開催し、生徒へ事前に十分に周知・連絡する必要がある。	
自他を尊重し、互いに協力する態度や遵法精神の育成	生徒同士が互いを尊重し、協調しながら生活することができるか。	非行事例の減少といじめ解決100%を目指す。	SNSを中心に情報モラル、情報マナーについての指導を継続的に行う。早期にいじめを発見できるよう機会あるごとに声かけ指導を行う。	B	情報モラルの講演会を10月に実施したが、来年度は早めの実施を検討する。いじめ事案は重大なものは確認されておらず、それぞれ早期発見・解決がなされた。 1年部では夏休み明けに携帯電話や人間関係について考える週間を設けた。朝読書の時間に人権啓発の冊子等を活用していじめについて考えさせるなどした結果SNSトラブルが減少した。	

	交通安全意識の確立、交通法規の理解と交通マナーの向上	交通事故・違反が減少したか。無施錠自転車が減少したか。	事故違反件数を減少させ、安全運転意識の向上を図る。二重ロック100%。	交通安全教育の自校実施と交通委員会の活動を充実を図る。二重ロック及び無許可自転車指導を徹底する。	B	今年度前半での交通事故の発生件数が多く、交通安全教室は12月実施したが、来年度はより早い時期の実施を検討する。交通委員会による二重ロック点検も定着し、100%二重ロック達成のクラスが出るなど、生徒の意識も変わってきた。無許可自転車の点検など、定期的にも実施され、掲示物も効果的であった。
人権教育の推進	研修の充実と職員の人権意識の高揚	教育の根幹に人権尊重を捉え、すべての教育活動において人権教育の推進ができてきているか。	教職員が人権尊重の理念を理解し、全ての教育活動において推進できる体制づくりや研修の実施。	計画的な研修による学び合いを通して、人権意識の高揚を図り、人権尊重の理念についての認識を深めるとともに実践的な指導力を育む。(一人1回の校外研修参加等)	C	人権教育講演会をはじめ研修を計画的に実施できた。職員研修での意見交流を通して自他の実践を振り返りお互いに情報を交換することができた。しかし、学習内容や教材選択、また、教え方などの技術的な部分の意見交換にとどまった。
	人権の重要課題の学習	人権課題を自分の問題として考える学習になっているか。	これまでの積み上げに留意しつつ改訂を進め、生徒の主体性を育む人権教育LHRの推進。	学年の担当者と推進委を中心に全職員が組織的に取り組める指導案の作成。意見交流を通して、主体的に学びを深める人権教育LHRの実施。	B	人権教育LHRで仲間づくり、水俣病など様々な人権課題について学びを深めた。事前に学年で協議し、学年全体で取り組むことができた。班別協議を取り入れ生徒同士の意見交流が図れた。今後意見交換がやりやすい指導案を検討したい。
	命を大切にすることを育む指導	人権尊重の精神に立った学校づくりが推進されているか。すべての教育活動の中で、「命を大切にすることを育む指導」の視点を立った教育実践がなされているか。	人権が尊重される授業づくりの推進 人権が尊重される人間関係づくりの推進 人権が尊重される環境づくりの推進	生徒が多様な学びの中で、自他の特性を自覚し主体的に学習に取り組める授業の工夫・改善を行う。(生徒理解研修)共感的人間関係を育成	C	人権作品応募は全校で取り組めた。人権週間には図書部と連携して、人権教育LHRに関する書籍や資料の展示コーナーを設け、啓発することができた。常設している人権教育掲示板を、更に活用していき

				する支援の推進（面談・家庭訪問） 人権尊重の雰囲気が醸成される環境づくりの推進（人権作品応募）		い。 1年生ではSNS上の書き込みでトラブルがあり、多様性を受け入れ、自他の人権が尊重される雰囲気が醸成される環境づくりが必要である。
いじめの防止等	いじめ防止対策委員会を核とした職員間の連携	学級・学年・各分掌部などにおける連携が成されているか。 小さないじめを見逃さない初期対応ができていますか。	いじめ防止対策委員会での連携を密にして、情報の共有を図り、いじめの未然防止を図る。 心のアンケートやいじめ通報アプリの情報に速やかに対応する。	いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り、全職員で共通理解と防止に取り組む。 心のアンケート実施後速やかに担任は生徒への聞き取りを行う。	B	心のアンケートやいじめ通報アプリの通報に速やかに対応できている。 積極的生徒指導を行い、生徒間のトラブルを極力少なくすることを心がけた。特性のある生徒とその周囲の生徒との間にトラブルが発生している。人権教育を通じ、多様な生徒がいることについて理解を深めたい。
心身の健康	望ましい食習慣と生活習慣の定着化を図る。	自分の食習慣や生活習慣に関心を持ち、行動できているか	自分の食習慣や生活習慣を見直し、積極的に改善する力を付ける。	生徒の実態把握を実施し、自分の生活習慣を見直す機会を作るとともに、生徒が主体的に参加する行事を計画する。	B	文化祭では、生活習慣を見直す機会として、睡眠をテーマに保健委員発表を実施することができた。放課後キッチンでは、簡単な日常食を作る力と意欲を身に付けさせるため、2回実施することができた。生徒の食習慣等の具体的な実態把握については次年度の課題としたい。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	熊本地震を教訓として、災害時の地域との連携体制の構築や防災教育の充実	学校運営協議会を通して、関係機関と連携しながら、防災対応について整備が進むとともに、防災教育の充実が図られているか。	生徒及び職員の防災対応能力を向上させる。また、保護者や自治体と連携した災害時対応マニュアルを策定する。	学校運営協議会を開催し、各委員から御意見を伺いながら地域防災や防災教育についての取組を充実させる。避難訓練の実施回数を増やして生徒の防災意識を高める。	B	スモール訓練を4回、避難訓練を1回、熊本シェイクアウト訓練を1回実施した。各回の反省を活かしながら、良い取組にすることができた。生徒たちも回数を重ねるごとに、防災意識は高まっている。避難訓練が形骸化しないように、計画を練っていく必要がある。

	開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	積極的な情報発信に努め、「地域に開かれた学校作り」の評価で90%以上を目指す	体験入学や中学校説明会、中学校訪問を充実する。湧水（学年広報誌）を毎月配布する。学校HPを定期的に更新する。	B	学校のHPに関しては、生徒の活動の状況が適宜アップされていた。HPは定期的に更新できている。保護者等に見てもらえる工夫は今後も必要であると思う。毎月湧水を発送し学校の行事・生徒の様子などを連絡した。安心メールでもHPの更新の件や湧水発送の件について発信したい。
		地域社会に貢献しようとする態度が育っているか。	生徒会主催の学校行事について地域の方々へ案内し学校への来校者を増やす。地域に奉仕する。	生徒でポスター等を作成し、学校周辺地域に配付する。地域のボランティア活動に参加する。	B	生徒会では地域の祭りやH31全国高校総体の高校生活動推進委員会に参加するなど、地域や県の取組に参加した。また、1年部の生徒も、赤い羽根共同募金、熊本市立図書館の配架ボランティア、出水校区の防災グッズ整理ボランティアなど多くの活動に参加した。

#### 4 学校関係者評価

- (1) 「通級による指導」など、生徒一人一人にきめ細やかな指導が行われている。
- (2) 退学者を減らすために、1年の夏休みまでに頑張っ指導をすれば、夏休み以降に生徒の落ち着きが見られるようになる。最初の頑張りが必要である。
- (3) アンケート調査結果で2年生徒の評価が低い。原因を分析し、評価が上がるように対策をお願いしたい。
- (4) アンケート調査結果で保護者の学校への評価が低い。保護者会も課題と感じており、保護者が学校に関心を持つ工夫を、学校と共に考えたい。
- (5) PTA活動を通して学校の情報が入り、先生方の頑張りが見える。そうすれば、先生方を手伝いたいという保護者も増える。
- (6) 自己評価の項目に、生徒の学力の向上や人間の成長が測れる項目がほしい。
- (7) 三者面談において、生徒及び保護者に方向性をはっきり示すなど、面談の内容の向上を図ってもらいたい。

#### 5 総合評価

- (1) 個々に応じた丁寧な指導に感心している。教員の教科指導力向上にいろいろ取組をされている。
- (2) 第1回目の会議で授業を参観させてもらったが、授業中、生徒の笑顔が見られた。先生が丁寧に粘り強く教えている。
- (3) 生徒が社会に出て、教師の支えがなくとも、自立できる生徒の育成が必要である。
- (4) 障がいを持ち支援を要する生徒の就職活動にSSWと連携し取り組んでもらいたい。

## 6 次年度への課題・改善方策

- (1) 大学入学共通テストや新教育課程に向けて、思考力、判断力、表現力を育むことが更に重要になっており、主体的に学びに向かう力を養えるよう授業改善に取り組む。
- (2) 昨年度から準備にはいった「通級による指導」も順調な滑り出しができた。「通級による指導」方法の他の職員への周知や、対象生徒の選出や保護者及び本人との意思確認や教育課程の検討など、通級指導委員会を中心に課題を検討し、指導の定着に向けて研究を進める。
- (3) 関係者評価委員会において、1年生の入学後の指導方法についての助言があり、特に生徒指導（情報モラルや交通指導）について早い時期の指導を行い、事故や事件を未然に防ぐ取組を充実させたい。
- (4) 早期離職を防ぐため、キャリア教育の充実が求められる。ボランティア活動への積極的な参加を通じて働くことの喜びを感じるとともに、インターンシップの新規開拓、早期の職業調べや職業インタビュー等で自己理解も含めて、職業選択の幅を広げる指導を行う。
- (5) 命の大切さを理解させるとともに、他者を認め、自分を大切にすよう、更なる人権教育の充実を図る。参加型体験学習による人権教育LHRの実施や、職員研修において人権教育等の教育実践の交流を図る。